

議 事 録

会議名	平成２９年度 第２回 福岡市地域公共交通会議
日時	平成２９年９月６日（水）１５時００分～１５時４５分
会場	福岡市役所本庁舎９階 特別第２会議室
議事概要	議題１ 西区橋本地区における地域循環ミニバスの試行運行期間の延長と 運行内容見直しについて 報告１ 早良区脇山支線の運行内容見直しの方向性について
発言者	発言要旨
事務局	●平成２９年度第２回福岡市地域公共交通会議を開会する。
会長	<会長挨拶>
事務局	<委員紹介>
事務局	●福岡市情報公開条例に基づき、会議は原則公開としており、傍聴を受け付けている。 ●委員７名にご出席いただいております、福岡市地域公共交通会議規則第６条第３項に基づき、本会議は成立した。 ●議事録は、後日、福岡市のホームページに掲載する。 ●議事の進行については、福岡市地域公共交通会議規則第６条第２項に基づき、会長にお願いします。
事務局	議題１ 西区橋本地区における地域循環ミニバスの試行運行期間の延長と 運行内容見直しについて <説明> 議題１
委員	○橋本駅循環ミニバスの運行連絡会議は、地域の方々との協議の場と思うが、いつ開かれて、こういった協議をしているのか。
事務局	●運行連絡会議は、地域、運行事業者、行政および沿線の病院や商業施設の方で構成され、月に１回程度開催している。会議では、運行についての現状報告や、利用人数、運行継続に関する今後の見通し等を運行事業者から伺い、地域の意見を伺っている。今回の運行内容の見直しも会議で合意したものである。

委員	○利用している方は、高齢者の方が多いのか。
事務局	●一概には言えないが、病院や商業施設があるので、そちらに向かわれる方が利用されている。
委員	○この周辺は、高齢者が多く住まわれているのか。
事務局	●過去に昭和 40 年代 50 年代に開発された戸建ての団地であるので、その当時に家を建てられた方が高齢化されていると思われる。車に乗れない方が乗っているとお見受けする。
委員	○やはり住民の方が、積極的に乗らなければバスの運行継続はできないと思う。
委員	○変更後の予備車について、乗客が満員になった場合に続行便をだすということか。
事務局	●多客時には、タクシーの普通車両と併せて運行する。
委員	○乗客が満員になった場合、続行便への連絡はどうしているのか。
委員	○タクシー無線で行っている。
委員	○利用客が長く待っている状況にならないければよいのだが。無線で連絡するとすぐに行くことができるのか。
事務局	●それほど広いエリアではないので、10 分程度で行くことができる。
委員	○利用客には周知されているのか。
事務局	●周知されている。 (その他意見なし)
会長	●それでは福岡市地域公共交通会議として議題 1 について了承してよろしいか。
委員	○了承した。

事務局	報告 1 早良区脇山支線の運行内容見直しの方向性について <説明> 報告 1
委員	○デマンド交通の選定にあたり，現在公募手続を行っていると思うが，事業者説明に何社ほど来ているか。
事務局	●9月4日に説明会を開催し，4社参加があった。
委員	○事業者の認定はどの場で行うのか。
事務局	●市で公募を行い，評価委員を定めて評価を行う。評価委員会で，1社に候補を絞り，この会議に運行計画をお諮りする。
委員	○評価委員会は市の内部の会議であり，認定方法が複雑である。通常，地域公共交通会議で事業者を公募し，地域公共交通会議で認定するという手続きではないのか。福岡市は認定手続きが混在しているのでわかりにくい。知らないうちに決まるのではないか。
事務局	●市が補助金を出すという事もあり，公募とし，事業者がどのような運行とするのか市で評価し，地域公共交通会議で結果を報告したい。
委員	○今回の脇山支線の再編において，系統が変わるだけなので，乗務員の数と車両の数は変わらない。ということはコストが変わらない。さらにデマンド交通となると，それも補助になるのでむしろ補助額が増えるのではないかと思う。バス運行を全部デマンド交通に切り替えるなどしなければ，トータルコストが増えるのではないかと懸念する。もちろん地域のご意向もある。バスも走りながらタクシーもという形より，できれば一本化するという方向で議論を進めていただきたい。要望になるがぜひお願いしたい。
事務局	●ご意見を踏まえて，今後検討していく。
委員	○デマンドタクシーは，登録制はとらないということか。
事務局	●現在のところ登録制は予定していない。予約すれば誰でも利用できる。

会長	●その他全体を通して意見はあるか
委員	○脇山支線の件は、利用者が減ったから、バスではなく別のものに替えるということではなく、根本を変えなければ解決しないのではないかと考える。地域公共交通会議で根本的なことを考えていくことも、ひとつの在り方ではないかと思う。乗務員の確保が難しくなっており、タクシーだと運転手が7割くらいしかいない状況である。メインの道路をバスが走り、小さな部分はタクシーが走るといったことをやらなければ、採算ベースなどでも難しい時代となってきた。他都市の例だが、過疎地の方を、病院や交通の便がよい中心部へ移住することを推奨している。できれば、この地域公共交通会議のなかで、交通の在り方など、いろいろな議論ができるよう、ぜひお願いしたい。
委員	○大賛成である。
事務局	●生産年齢人口の減少という大きな課題があり、まちづくりの話そのものになると思うが、まちづくりと公共交通を合わせて考えていく必要がある。
委員	○高齢化の中、日本の交通体系のモデルケースになるようなことができればよいと思う。
会長	●地域公共交通会議自体が、地域の需要に即した乗合運送サービスがいかにあるべきかを議論する場であると思うので、非常に大きな宿題を頂いた。
委員	○少子化と高齢化が目に見えて、肌身を感じる時代になってきた。国としても対策をしなければならないため、バスとタクシーの生産性向上ということで、バスで貨物を運び、貨物車で人を運ぶ、などの取組を今月から実施している。タクシーについては、社会実験だが、マッチングサービスで同じ方向の方が乗り合わせていけるような実験等を行っている。そういったことも参考にさせていただき、会議の中で議論できればと思う。 (その他意見なし)
会長	●以上で報告については終了し、進行を事務局にお返しする。
事務局	●次回の開催時期は12月を予定している。決まり次第ご案内する。 ●今回の会議は以上で閉会する。